



刑事法ジャーナル

Criminal Law Journal

第81号 (vol.81・2024)

巻頭言

「子ども性暴力防止法」(日本版DBS)について

椎橋 隆幸 3

特集 AI時代の刑法

☆ AI時代の刑法のあり方	今井 猛嘉	4
☆ ロボットと刑法	石井 徹哉	18
☆ 自動運転と刑法	日原 拓哉	24
☆ AI時代の刑法——諸外国の議論状況——	根津 洸希	36

特集 裁判員制度15年

☆ 裁判員制度の成果と残された課題——控訴審における審理も踏まえて——	藤井 敏明	43
☆ 裁判員裁判における控訴審への対応——検察の立場から——	渡邊 ゆり	51
☆ 裁判員裁判事件の控訴審での対応——弁護の立場から——	大橋 君平	58

講演

・ 刑事立法作業を振り返って (下)	古田 佑紀	64
--------------------	-------	----

外国刑事法研究

・ ドイツにおける経済腐敗あるいは民間部門における贈収賄について——ドイツ刑法典の改正(9)——	松原 和彦	86
--	-------	----

外国刑事法務事情

・ 英国刑事法務事情(79)——LXXIX 2024年3月～5月の主要動向——	清野 憲一	104
---	-------	-----

刑事裁判例批評

(481) 実子である被害者に対する監護者わいせつの事案において、3年以上別居していた被害者と1か月あまり前に同居するようになった被告人について、本件当時、被害者が経済的、精神的観点において被告人に継続的に依存し、保護されていたものと評価する場合と刑法179条1項にいう「現に監護する者」の該当性——東京高判令和4・12・13判タ1516号133頁——	海老澤 侑	127
(482) ALS患者の囑託を受けて同患者を殺害した囑託殺人の成否——京都ALS患者囑託殺人事件—— ——京都地判令和6・3・5判裁判所ウェブサイト——	神馬 幸一	133
(483) 破棄判決の拘束力の範囲——第1審判決について、被告人の犯人性を認定した点に事実誤認はないと判断した上で、量刑不当を理由としてこれを破棄し、事件を第1審裁判所に差し戻した控訴審判決の拘束力を有する判断の範囲—— ——最(一小)決令和5・10・11刑集77巻7号379頁、判タ1519号188頁——	青柳 勤	141
(484) 控訴審において検察官から訴因変更請求がされ、控訴審裁判所がこれを許可した事案について、事実認定に影響を及ぼさない専ら付随処分(没収)に関する法令適用の誤り及び理由齟齬を理由として原判決を破棄する場合における事後審である控訴審の審理判断の可否——仙台高判令和6・1・30裁判所ウェブサイト——	植村 立郎	146
(485) 裁判員裁判において死刑が言い渡された第一審判決を破棄して無期懲役を言い渡した控訴審判決に対する検察官の上告を棄却した事例——最(一小)決令和6・5・27裁判所ウェブサイト——	永田 憲史	152

書評

・ 日原拓哉著『AIの活用と刑法』(2023年、成文堂)	樋笠 堯士	158
・ 田中優企先生の早逝を悼む	柳川 重規	124